



Title	言葉を理解するとはどういうことか? : §2 Fregeの意味論
Author(s)	入江, 幸男
Citation	
Version Type	AM
URL	https://hdl.handle.net/11094/14261
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

第二回講義 2010年4月23日

前回の復習

伝統的な意味論としての「意味の心像説」「意味の概念説」を検討した。
そこで残された代案は、意味の指示対象説であった。

3、言語の意味の対象説

●語の意味は、その語が指示する対象である。

批判1：「ユニコーン」や「シャーロックホームズ」「nobody」「anybody」が指示する対象は存在しないので、これらは無意味である。

批判2：「二等辺三角形」と「二等角三角形」、「地球」と「太陽系第三惑星」は同じ対象を指示するので同じ意味になる。しかし、これらの意味は異なる。

批判3：「大学」とか「制度」とか「勇気」などの抽象的な語は何を指示しているのだろうか。それらが指示している対象が見つからないとすると、それらは無意味である。

批判4：「太っている」というような形容詞は何を指示しているのだろうか。それが性質を指示しているとするなら、「I am fat」というときの“is”という繫辞(copula)は何を指示しているのだろうか。それは「(私が太さを)持っている」という(私と太さの間の)関係を指示しているのだろうか。では、この関係は対象として存在するのだろうか？

擁護1：批判4に対しては、語が指示する対象としていわゆる物理的対象(時間空間上に一定の広がりを持つもの)だけでなく、性質や関係を含めることにすればよい。

批判3に対しては、「大学」や「制度」についてはそれらを何かの関係として定義することか出来るだろう。「勇気」は性質として定義することができるだろう。

批判5：「東京タワー」がある対象を指示することをどのように説明することが出来るのか、意味の心像説や概念説は、語がある対象を指示することを説明するものであった(その説明は不成功であったが)。語の指示対象説は、ある語がある対象を指示することを説明していない。

擁護2：ある語がある対象を指示することの説明は、意味論の問題ではなく、学習の問題である。

●文の意味は、その文が指示する事実(?)である。

批判1：文は語のリストであるとする、文の意味は語の指示対象のリストである。文が真であるとは、その対象のリストが現実存在しているということだろうか。＜その対象のリストが現実存在する＞というのは曖昧である。「東京タワーは赤い」は、もし東京タワーが黒くても、赤い服を着た子供がそこに登っていれば、真になるのだろうか。

批判2：「この見本は赤くない」の意味が語の指示対象のリストだとする、それはどのようなリストになるのだろうか。

擁護1：文の意味は、語が指示表現するリストであるが、そのリストの中には必ず関係が含まれており、文は語の指示対象の関係を表現しているので、「東京タワーは赤い」は対象<東京タワー>と対象<赤さ>の関係<持つ>を指示しており、その関係が現実にも存在すれば、それは真である。「この見本は赤くない」も対象<この見本>と対象<赤さ>の間に関係<持たない>を指示しており、この関係が成立すれば真である。

指示対象説についての以上の「批判」と「擁護」はどれもまだ不完全である。これを念頭に置きながら、つぎにフレーゲの意味論を検討したい。

§ 2 フレーゲの意味論

Gottlob Frege 1848-1925、イエナ大学教授、数学者、哲学者

参考文献 2000年2学期「現代哲学概説」の講義ノート0021Fregeと0022Fregeを参照
フレーゲ『フレーゲ哲学論集』岩波書店
野本和幸『フレーゲの言語哲学』勁草書房
ダメット「フレーゲの哲学」(『真理という謎』勁草書房、所収)

1 語の Sinn 意義と Bedeutung 意味

(論文「意義と意味について」1892 より、引用は『フレーゲ哲学論集』岩波書店から)

(1) 固有名 (Eigenname) の意味と意義

「今や明白なことであるが、記号には、記号によって指示されるもの・・・これは記号の意味 **Bedeutung** と呼ぶことが出来る・・・のほかに、なお私が記号の**意義 Sinn** と名付けようと思っているもの・・・ここには**ものの与えられ方が含まれている**・・・が結びついていると考えられる。・・・「宵の明星」と「明けの明星」の意味は同じであるが、意義は同じではない。」34

記号の**意味 Bedeutung** = 記号によって指示されるもの das Bezeichnete

記号の**意義 Sinn** = ものの与えられ方が含まれているもの 34

das, worin die Art des Gegebenseins enthalten ist.

$2 + 2 = 2 * 2$ (この意味は基数の4)

Hesperus (宵の明星) = Phosphorus (明けの明星)

三角形の中線の交点が一致するという例。

「私がここで「記号」とか「名前」とか言っているのは、固有名の代わりをする何らかの表示のことであり、かくしてその意味は特定の対象 (この語は最も広い範囲にとる)であるが、決して概念や関係ではない。」35

「固有名 Eigenname (語 Wort 記号 Zeichen・記号結合 Zeichenverbindung・表現 Ausdruck)

は、その意義を表現し ausdrücken、その意味を意味する bedeuten、あるいは指示する bezeichnen。」
39

(2) 固有名と述語：対象と概念

(フレーゲの論文「概念と対象について」以下の引用は『フレーゲ哲学論集』岩波書店から)

「概念は、述語的である。これに対し、対象の名前、すなわち固有名は、断じて文法上の述語として使用することはできない。」67

「それは緑である」

「それはほ乳動物である」

「それはアレクサンダー大王である」

「それは数4である」

「それは金星という星である」

「最初の二つの例において、ist は、繫辞として、つまり陳述のための単なる形式語として用いられている。…ここでは、われわれは何かあるものが一つの概念に属する、と述べているのであり、そして文法上の述語が、その際、この概念を意味するのである。これに対し、あとの三例においては、ist は相等性を表現するために、算術における等号のように用いられている。」67

「思想を構成する全ての部分が完結してはならず、少なくとも一つは、とにもかくにも、不飽和 (ungesättigt, unsaturated) ないし述語的でなければならない。さもないと、部分は相互に付着しないであろうから。したがって、たとえば[「数2は、概念素数に属する」における]「数2」という語結合の意義は、接着剤がなければ、「概念素数」という表現の意義に接着しないのである。そのような接着剤を、我々は「数2は、概念素数に属する」という文において用いている。それは「……は……に属する」という語に含まれているのであり、そしてこの語は、2箇所では補完が必要である。つまり、主語と目的語による補完を必要とする。また、これらの語の意義がこのような不飽和であることによって、初めて、この語は接着剤の役を果たすことが出来るのである。この語が補完されたときに初めて、我々は1つの完結した意義を手に入れるのであり、思想が与えられるのである。今や私は、このような語あるいは語結合について、それらは関係を意味する、という。」

80

	意味 (Bedeutung)	意義 (Sinn)
固有名 (Eigenname)	対象	対象の与えられ方
述語	概念 (不飽和)	文の意義への貢献?

・補足：関数と概念の関係

「アーギュメントは、関数の一部ではなく、**関数と共同して一つの完全な全体を形成するものである**、ということを示すことであります。なぜなら、関数は、それだけでは不完全で、補完を要する、あるいは**不飽和**である、というべきものだからです。」(論文「関数と概念」岩波、7)

「**概念とは、その値が常に真理値であるような関数である。**」前掲書、15)

2 文の意味と意義

(1) 思想は文の意義である。

・同意義語の代入による証明

「まず我々は、文は意味を持つものと仮定しよう。いま文において、一つの語を、意義は異なるが同じ意味を持つ別の語で置き換えたとき、このことは文の意味に影響を与えはしない。だが、その場合に思想が代わることは分かる。なぜなら、例えば、「明けの明星は太陽によって照らし出される天体である」という文の思想は、「宵の明星は太陽によって照らし出される天体である」という文の思想とは異なるからである。… だから、思想は文の意味ではありえない。それどころか、我々は思想を意義として把握しなければならないであろう。」（「意味と意義について」岩波、40）

（「思想は文の意義である。ただしそれとともに、あらゆる文の意義が思想であると主張するつもりはない。」103 おそらく、命令文などが念頭にある。）

(2) 文の意味は何か？ 真理値である。 真理値とは何か？ no answer？

・文は意味をもつのか？ 少なくとも意味を持たない文が存在する

「いずれにせよ、意義はもつが意味をもたない文成分が存在するのと全く同様に、そのような文が存在することは予期できるであろう。」40

「そして、意味をもたない固有名を含んでいる文が、この種の文であろう。「オデュッセウスはぐっすり眠っている間にイタケーの海岸に打ち寄せられた」という文は明らかに意義を持っている。しかし、この文の中にある「オデュッセウス」という名前が意味をもっているかどうかは疑わしいので、文全体が意味を持つかどうか、それと共にまた疑わしい。」41

また、フレーゲの理解では、疑問文は文の意義を持つが真理値をもたない。

・「何故我々は思想で満足しないのか。それは真理値が我々にとって問題だからであり、またその範囲内でのことである。」41

「文の構成要素の意味が問題になるとときには、常に文に関して意味を求めることが出来る。そしてこれは常に、我々が真理値を問うとき、かつそのときに限って成り立つことである。

このようにしてわれわれは、文の真理値を文の意味として承認することを余儀なくされるのである。私が文の真理値というのは、文が真である状況、あるいは偽である状況 (den Umstand, daß er wahr oder daß er falsch ist) のことである。他に真理値はない。簡潔のために、私は一方を真、他方を偽と名付ける。」42

「真理値」は、「文が真（偽）となる状況」ではなくて、「文が真（偽）である、という状況」である。ゆえに、文は、客観的な事態（Sachverhalt）を指すのではない。

「こうして、文中の語の意味が問題になるような断定文はいずれも固有名として把握されるべきであり、しかもその意味が存在するときは、それは真か偽かのいずれかである。」 42

「あらゆる判断においては、既に思想の段階から意味（客観的なもの）の段階への移行が行われているのである。」 42 「原注7：判断とは、私にとっては、単に思想を把握することではなく、その思想の真であることの承認である。」 62

(3) なぜフレーゲは、文の意味は事態である、と考えないのか？

文がある事態を表現していると考え、文が真であるとは、表現された事態が事実と一致することである、という真理の対応説を主張することになるだろう。しかし、フレーゲは以下のように真理の対応説を批判するので、文の意味が事態であるとは考えない。

「人は、真理は絵と描かれたものとの一致にある、と推測するかもしれない。一致は関係である。だが、これは「真」という語の用法に矛盾する。この語は関係語ではないし、また、あるものが別のあるものと一致するはずの、当の別のものへの示唆も含んでいない。」 101（フレーゲの論文「思想」引用は『フレーゲ哲学論集』岩波書店から）

「一致が実際に完全なものでありうるのは、一致すべきものが相等しいとき、かくして、少しも異なったものでないときに限るのである。」 101

「表象と事物を重ね合わせることは、この事物がまた表象でもあるときに可能であるに過ぎない。」 101

「何らかの点において一致が生じるなら真理は成り立つ、と定めることはできないであろうか。だが、どの点においてか。またその場合には、なにかあることが真であるかどうかを決定するためには、我々は何をしなければならないのであろうか。定められた点において——例えば表象と実在が——一致しているということが「真」であるかどうか、我々は調べなければならないであろう。そしてそれにより、我々は再び同じ種類の問題に直面するであろうし、ゲームが新たに始まるかもしれない。こうして、真理は一致である、と説明しようとするこの試みは失敗する。」 102

(4) 真理のあらゆる定義の失敗

「それゆえ、真理を定義しようとする他のあらゆる試みもまた失敗する。なぜなら、定義においては、幾つかの徴表が特定されようし、そして定義を特殊な場合へ適用するにあたり、これらの徴表が当てはまっているというのが、“真”であるかどうか、が常に問題になりうるからである。こうして我々は円の中をグルグル廻っているのである。したがって、「真」という語の内容はまったく独特であり、定義不可能であるように思われる。」

「およそ真理が問われるものは、文の意義であることが明らかになる。では、文の意義は表象であろうか。いずれにせよ、真理は、文の意義と他の何かとの一致にあるわけではない。なんとなれば、さもないと真理への間が無限に繰り返されるであろうから。」 103 （なぜ？）

	意味 (Bedeutung)	意義 (Sinn)
固有名 (Eigenname)	対象	対象の与えられ方
述語	概念 (不飽和)	文の意義への貢献?
文	真理値	思想 (真理値の与えられ方?)

練習問題：存在命題「ウィーンが存在する」について

「私は、存在を概念の性質と呼んだことがある。このことで私が何を理解しているのかは、具体例によって明らかにするのが最善であろう。」(論文「概念と対象について」岩波、73)

たとえば、次の場合、

「4の平方根が、少なくとも一つは存在する」

これは、「特定の2や-2について述べているのではなくて、一つ概念、4の平方根について、それが空ではないと述べているのである。」73

フレーゲはおそらく次のように考えているのである。

$\exists x$ (xは4の平方根である)

存在命題が常にこのような式で表現されたとすると、存在は、概念の性質である。

「わたしは、概念について陳述されていることを、対象について陳述することは、偽であるというのではない。わたしが言いたいのは、それは不可能であり、意義をもたないということである。

「ジュリアス・シーザーが存在する」

という文は、真でも偽でもなく、意義をもたないのである。もっとも

「ジュリアス・シーザーという名前の人間が存在する」

という文には意義がある。この主語は、概念である。」75

「ウィーンは、一つしか存在しない」

「トリエステは、ウィーンではない」

「ウィーン」は、ここでは「帝都」と同じように概念語である。」75

練習問題：フレーゲならば、「ユニコーン」の意味をどう考えるでしょうか？

練習問題：「タワーは建築物である」

それでは普通名詞が主語になるときについて、フレーゲはどう考えるのでしょうか？

「タワーは、建築物である」